

東邦大学 健康科学部看護学科 卒業生向けアンケート結果（2023年度実施）

アンケート概要

対象：2020年度（2021年3月）東邦大学健康科学部卒業生73名中メール依頼できた53名

回答：35名

期間：2023年9月8日（金）～9月22日（金）

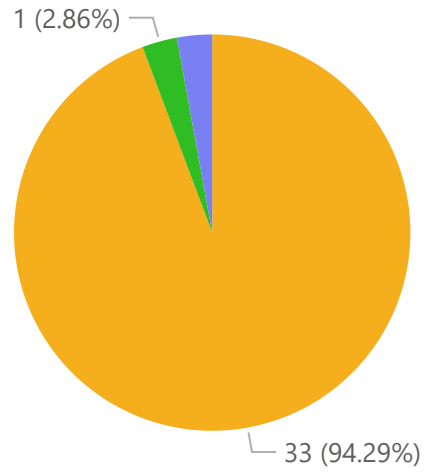
方法：Google formsによる匿名回答



Toho University

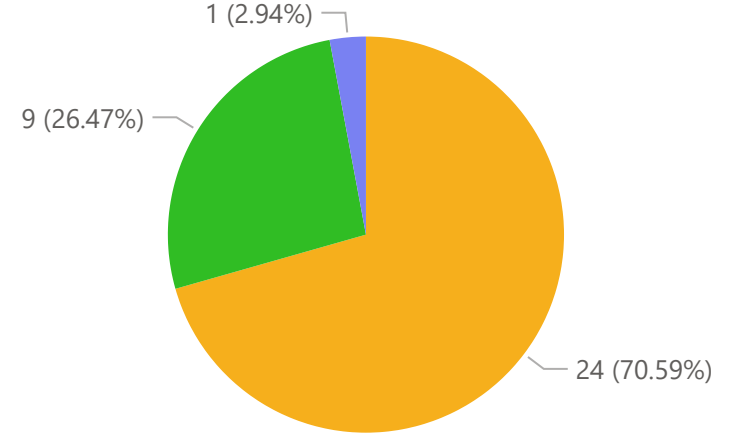
① 現在の状況

● 1.看護師として勤務 ● 2.保健師として勤務 ● 6.就業・在学ともにしていない



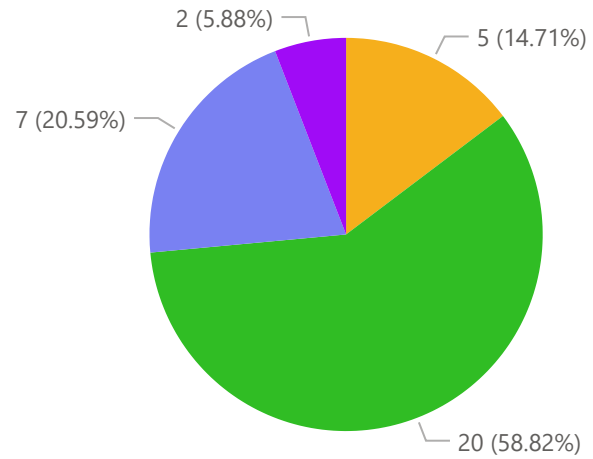
② 勤務先

● 1.東邦大学医療センター ● 2.本学医療センター以外の国公立・私立病院 ● 一般企業



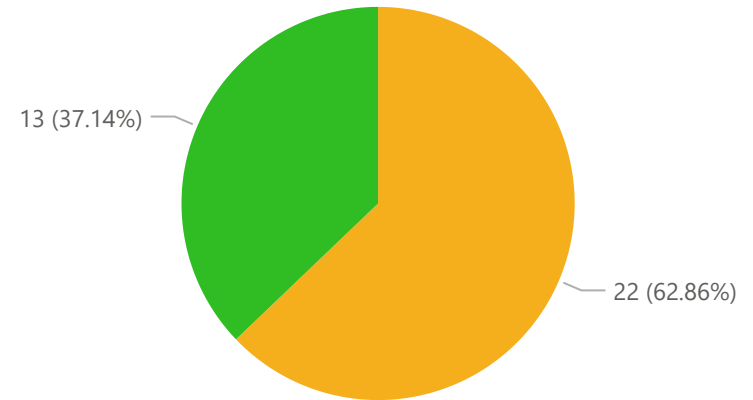
③ 勤務先・進学先に対する満足度

● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.どちらとも言えない ● 4.あまり満足していない



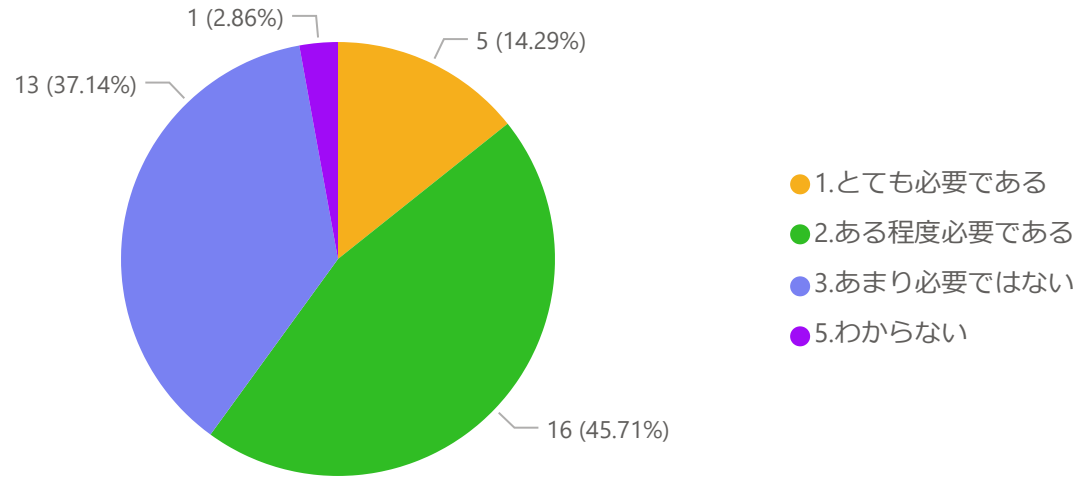
④ 現在居住中の都道府県

● 12.千葉県 ● 13.東京都

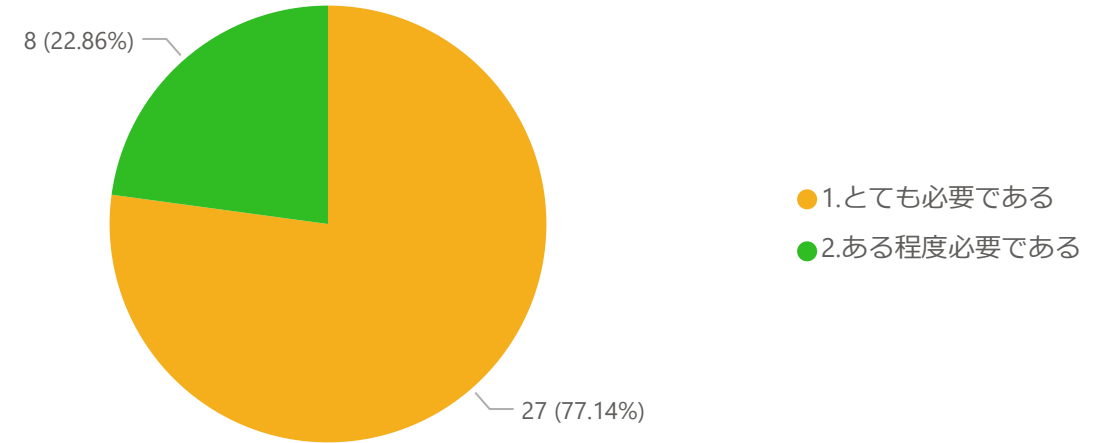


⑤-1 ディプロマ・ポリシー（DP） で掲げる知識・態度・能力の修得度・役立ち度（その1）

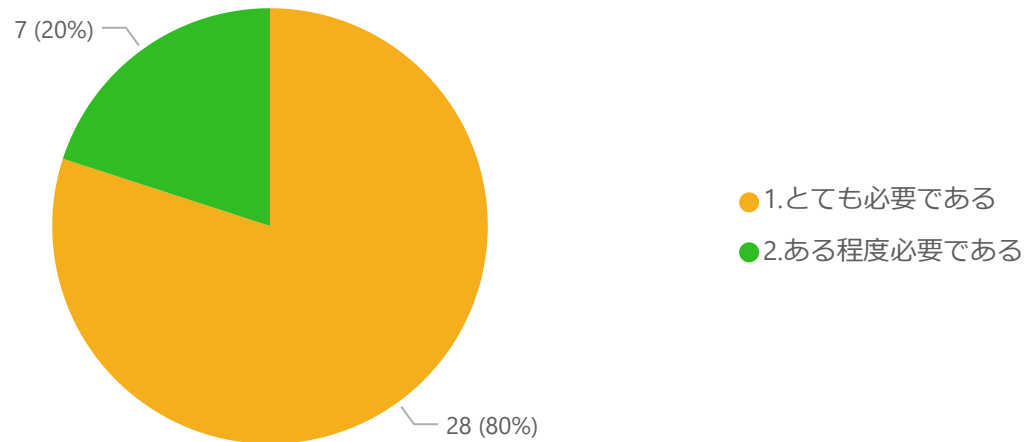
[①自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力]



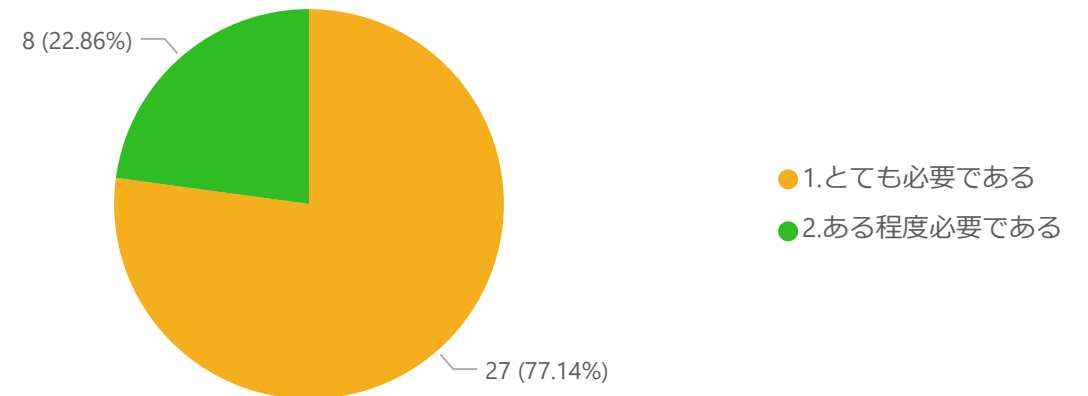
[②看護学の専門知識と技術]



[③他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる力]

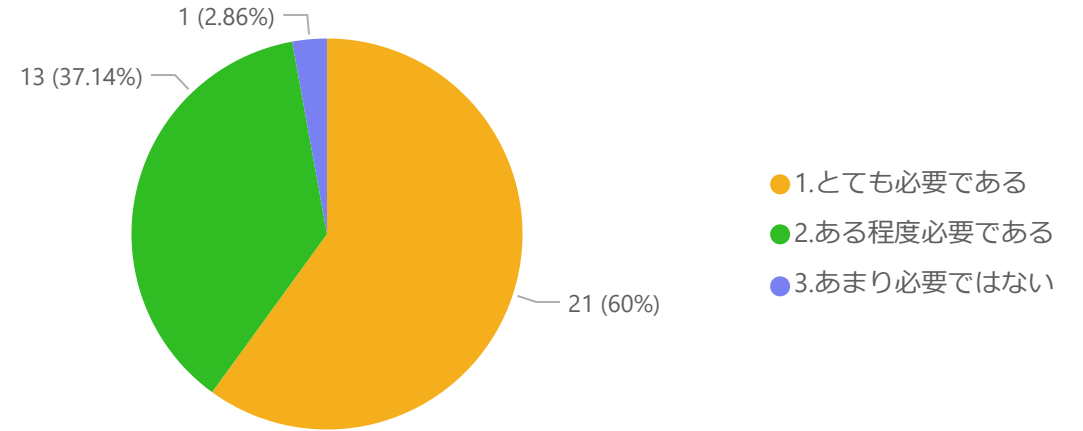
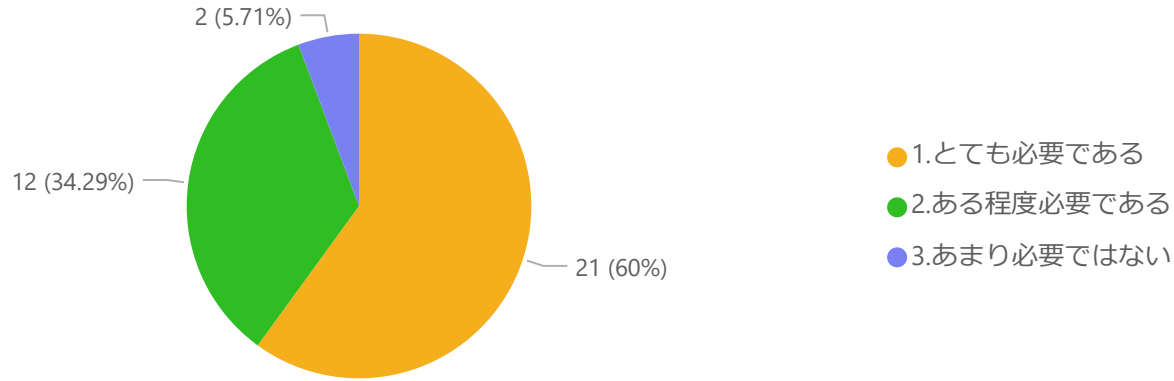


[④看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力]



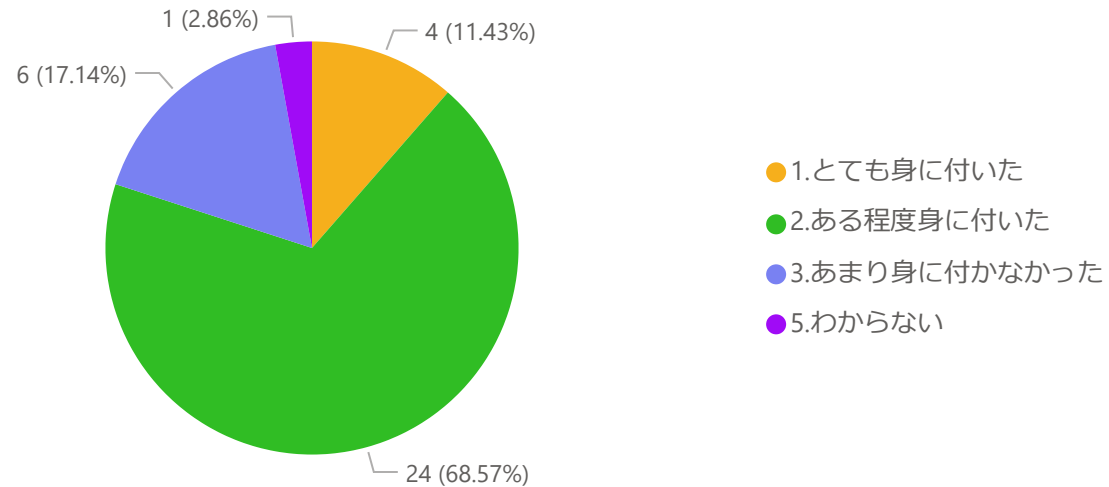
⑤-1 ディプロマ・ポリシー（DP）で掲げる知識・態度・能力の修得度・役立ち度（その1）

[⑤看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質] [⑥自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢]

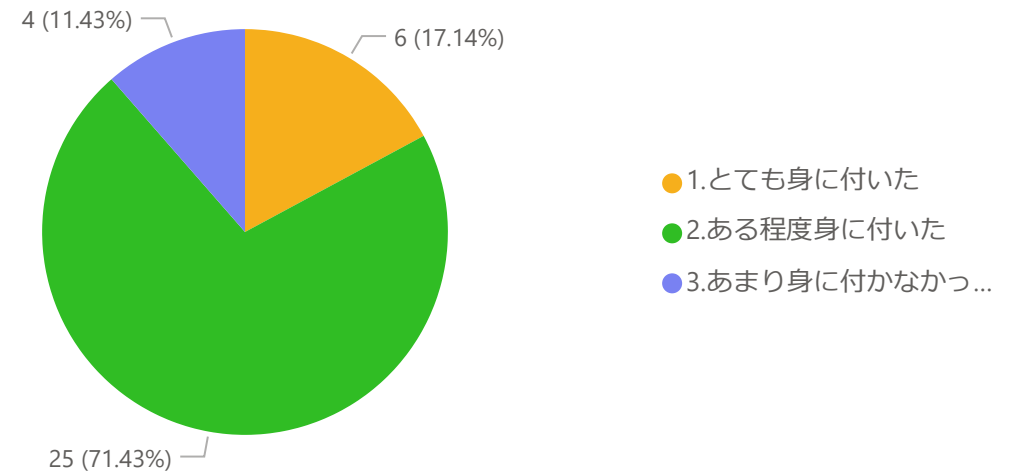


⑤-2 ディプロマ・ポリシー（DP）で掲げる知識・態度・能力の修得度・役立ち度（その2）

[①自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力]

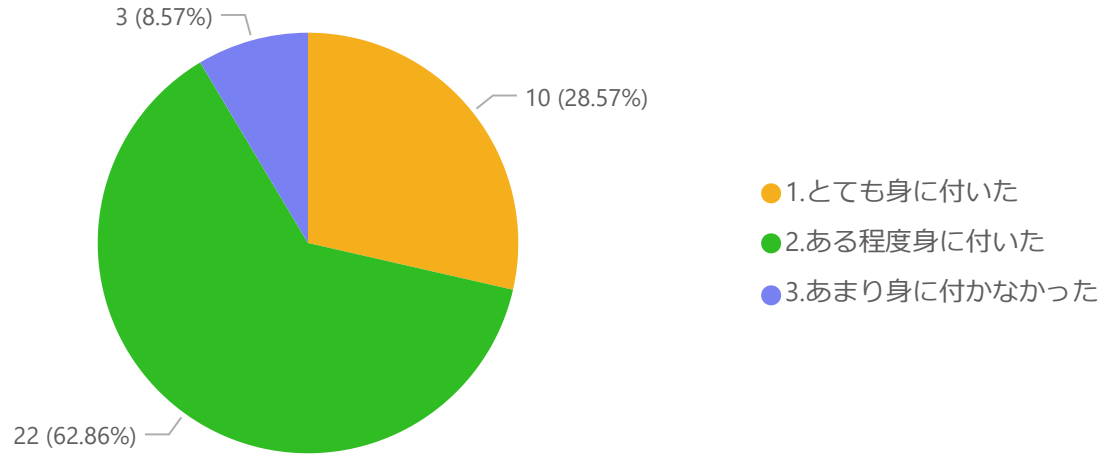


[②看護学の専門知識と技術]

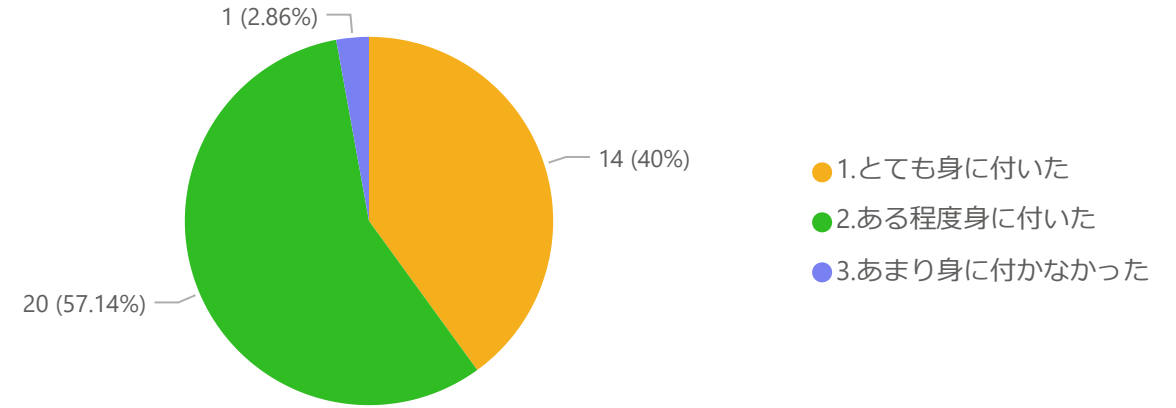


⑤-2 ディプロマ・ポリシー（DP）で掲げる知識・態度・能力の修得度・役立ち度（その2）

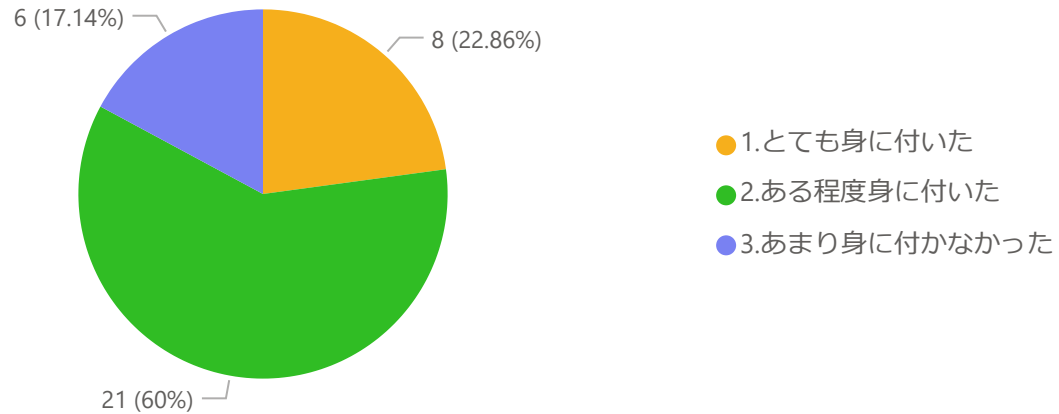
[③他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる力]



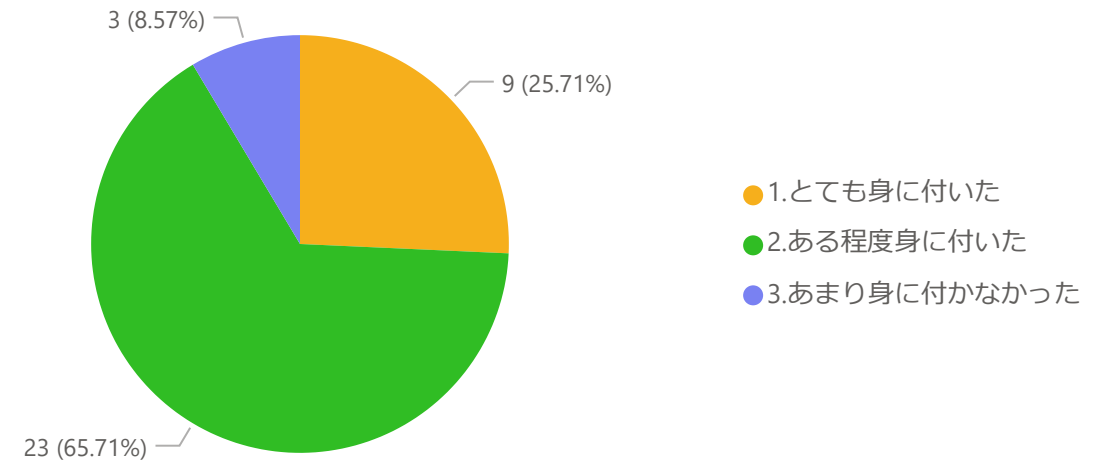
[④看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力]



[⑤看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質]

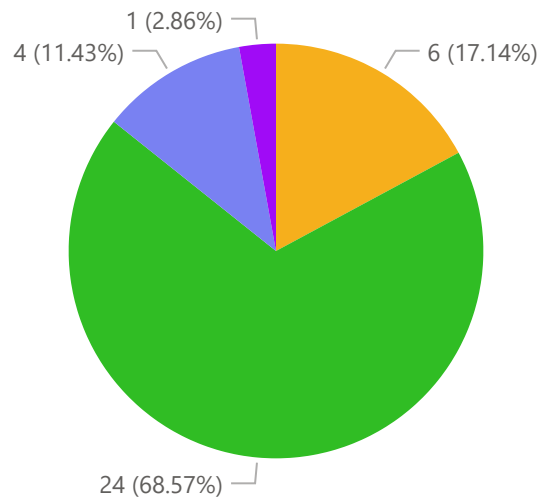


[⑥自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢]



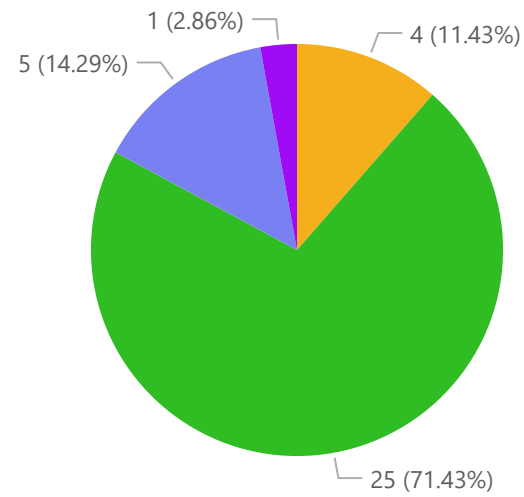
⑥ 東邦大学に対する満足度

[自身の成長]



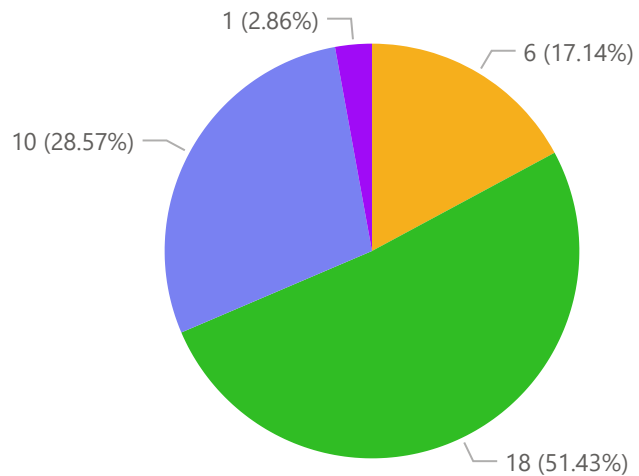
- 1.満足
- 2.やや満足
- 3.どちらとも言えない
- 4.あまり満足していない

[カリキュラム全般]



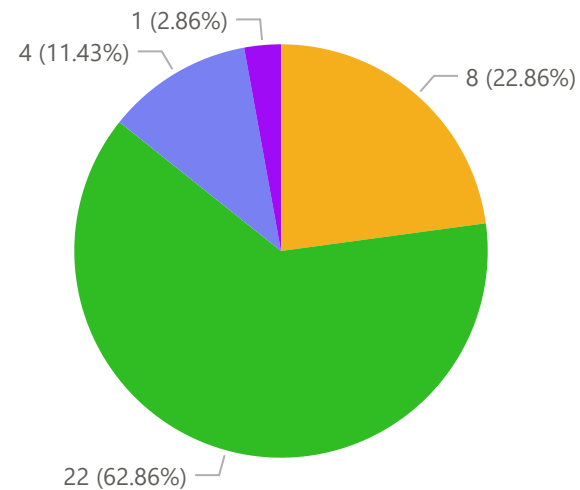
- 1.満足
- 2.やや満足
- 3.どちらとも言えない
- 4.あまり満足していない

[キャンパス内施設・設備]



- 1.満足
- 2.やや満足
- 3.どちらとも言えない
- 4.あまり満足していない

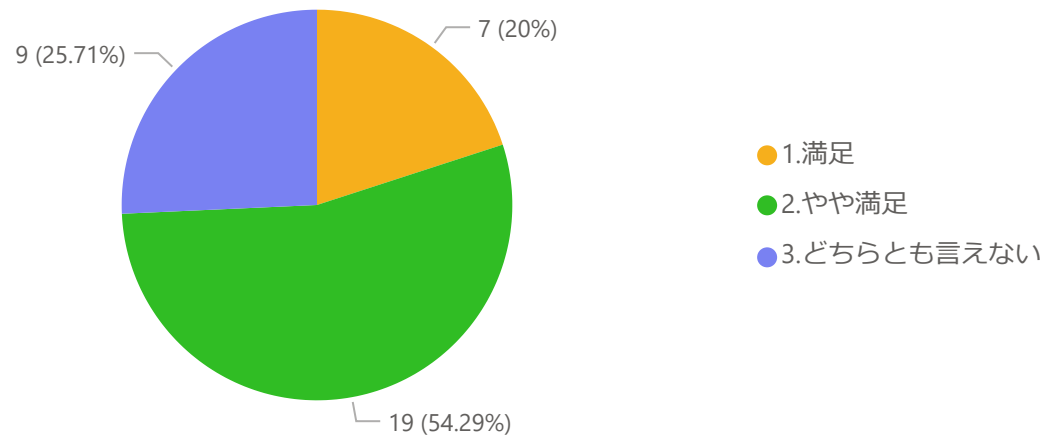
[学修に係る支援]



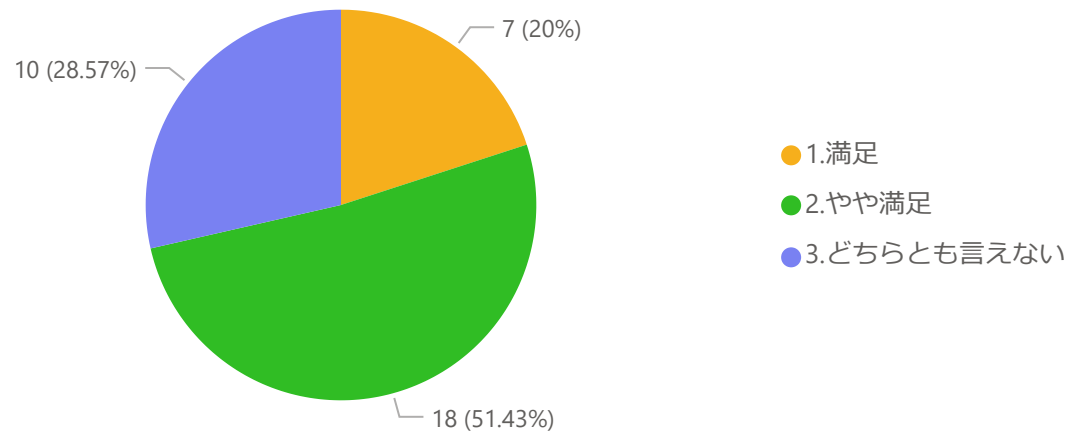
- 1.満足
- 2.やや満足
- 3.どちらとも言えない
- 4.あまり満足していない

⑥ 東邦大学に対する満足度

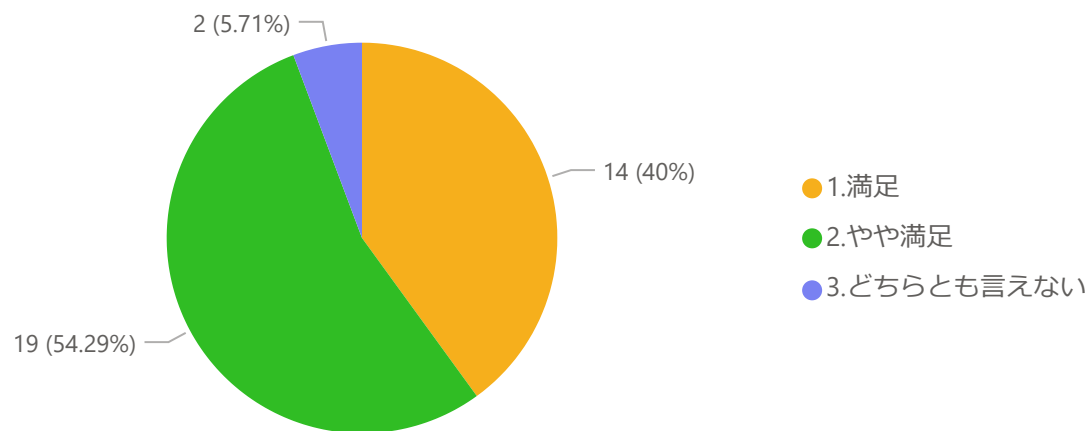
[学生生活（課外活動、健康管理、学生相談等）に係る支援]



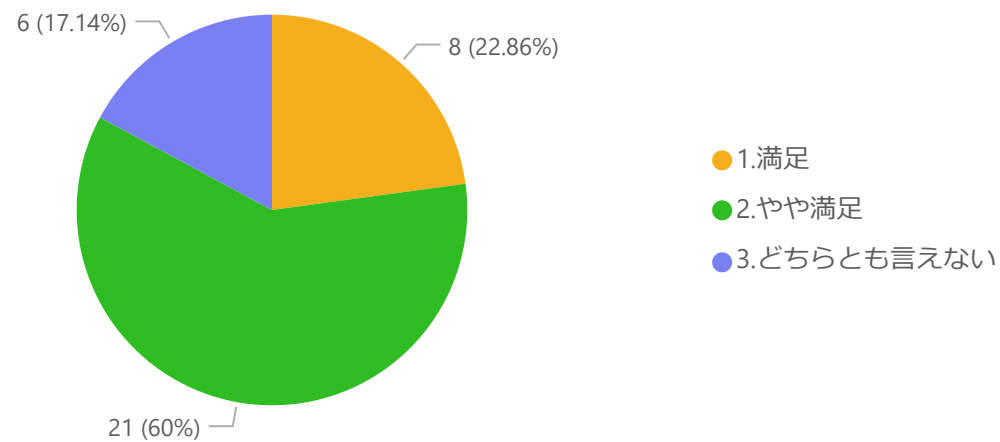
[進学・就職等に対するキャリア支援]



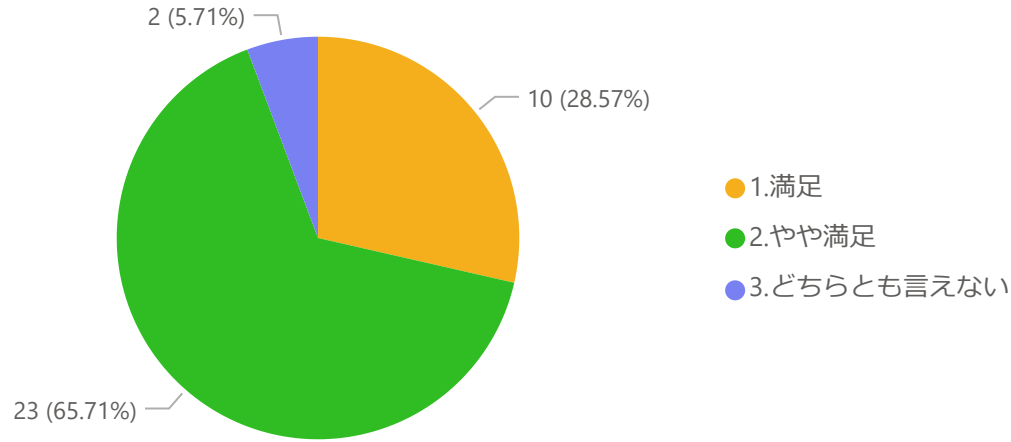
[教員]



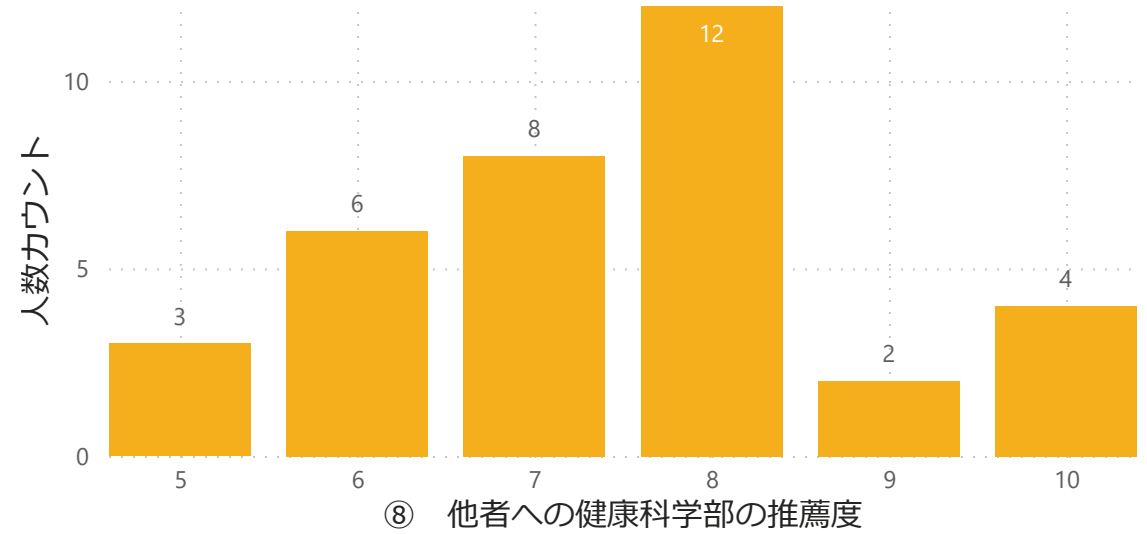
[事務窓口全般]



⑦-1 学生生活の総合的な満足度



⑧ 他者への健康科学部の推薦度



[卒業生アンケートの結果に対する教育活動の改善の方針]

卒業生アンケートの結果から推薦度と満足度との関係性を分析した結果、『推薦度を向上させる要因であるが現在の満足度が低い』項目として、「カリキュラム全般」「自身の成長」が挙げられた。一方、最も『満足度が高い』項目は「学修に係る支援」であり、そのうち「教員」に対する満足度が最も高かった。

「カリキュラム全般」については、卒業生が履修したカリキュラムを見直し、2022年度にカリキュラムの改正を行ったが、2025年にもマイナーチェンジする予定である。今後は改正カリキュラムの結果を踏まえて検討していく。

「自身の成長」については、『満足』と『やや満足』と回答した卒業生は85.71%であった。当該卒業生の4年次はコロナ禍の真っ只中であり、「看護実践の探究（統合実習）」が臨地で行えないなどの状況であった。よってその後の卒業生の動向も踏まえて検討していく必要がある。今後は、4年間の自身の成長を学生自身が確認できるように、4年次の科目において学修の統合を支援するとともに、自己の成長を確認できるような支援方法を検討していく予定である。

「カリキュラム全般」および「自身の成長」において、「学修に係る支援」は重要な要因になると考える。学生との関係性を築きながら、一人一人の学生の学修および学生生活に対する支援を丁寧に行っていきたい。

なお、就職・キャリア支援については、満足とやや満足と回答した卒業生は71.43%であった。今回のアンケートに回答した卒業生は1期生であり、先輩がいなかったことから就職情報が不足していたと考えられる。その後、3年経過し学生が共有できる就職情報が漸増している。今後も有用な情報を蓄積・更新して満足度の向上を図っていきたい。